

## 議員特別研修実施報告書

報告議員名	青山 豊	報告日	令和8年3月31日
調査研究・研修等 名 称	交通空白解消セミナー		
実 施 日	令和8年3月31日		
会 場	リファレンス西新宿大京ビル		
調査研究・研修等の 概 要	別紙参照		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙参照		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

## 議員特別研修報告

交通空白解消セミナー

(新宿区・リファレンス西新宿大京ビル)

講師・早稲田大学スマート社会技術融合研究機構研究院 井原雄人客員准教授

### ① ライドシェアと自動運転の基礎と課題

「流行りものをどう地域に取り込むか？」誰かがどこかでやらないと成果が出ない。

But、短期ではなく、中長期的な手段である。

#### ●ライドシェア

2種類ある。公共ライドシェアと日本版ライドシェア

◇公共ライドシェア・・・実施主体は多様。マンションの自治会が担っている例もある。「公共」であるがゆえに、儲かることを前提としない。10～20%の収支率であれば○

◇日本版ライドシェア

・現状はタクシーが「足りない」のではなく、「足りないときもある」。Ex)金曜夜、平日朝。

・年ごとに要件が緩和されている。2025は事業者化やタクシー以外の車両可、地域の拡大といったことが検討、実証されている。

#### タクシー政策を考える

変動迎車料金の導入→自治体として割引券を出すなどの施策必要。

営業区域外旅客運送→設置された協議会で調べば可能。

#### ●自動運転

自動運転バスについて

・レベル4以上が運転手不足解消となるが、まだ無理。15年前後かかる。

・実証においては1台あたり1億円のコスト。それなら運転手の年収を1千万にした方が良い。

・2025から実証実験の国補助率が100%→80%になった。

地方で公共交通を利用しているのは10%。そのために自治体がお金をかける覚悟はあるか？そもそも住民は自動運転を受け入れるのか？

#### まとめ

ライドシェア、自動運転の実証をコンサルが自治体に持ちかけるが、慎重であるべきだ。やるのであれば「地域をどうしたいのか？そのために必要なものは何か」を考えなければならない。

#### 感想

タクシー不足が顕在化している状況で、さすがに横手市も日本版ライドシェアを検討しなければならないと考え、受講。しかし、導入しても即成果には結びつく保証はなく、それ以前にまずはタクシー政策そのものをビルドアップしていく必要があると感じた。

## ② 交通崩壊の解決策としての地域公共交通への投資

### 地域のバス会社の現状

- ・コロナ下から回復できていない。
- ・路線バス赤字を補填していた貸切・高速バスも赤字になり、行政の補助だけで乗り越えられない。

☆だから「投資」を模索

自治体がお金を出して、企画する。改善する。

◇しかし、地方は・・・そこまでの体力があるのか？

肝心なのは住民の「行動の変容」。

鶴岡市→循環バスの利用者増施策

◇須坂市→バス会社が“儲かる”路線に絞る。

これからはバス会社が政策の主導権を握るかも。

◇タクシーは困ったときの最後の砦。だから、自治体にタクシー会社は1つないとダメ。そのために政策を考える。

### まとめ

公共交通（鉄道、バス、タクシー）を民間でやっているのは日本くらい。海外は上下分離が主流。日本の公共交通は「公共」ではない。

公共交通政策は①生活支援の視点で行政は補助する②利便性のために投資する、の選択。

### 感想

地元のバス会社の運転手不足により、路線廃止等の問題が発生していることからの危機感で受講。講師は補助か、投資かの選択を明示したが、当地域の現状を考えるにその中間も考えていかなければ・・・と思う。いずれ、バス会社に対する自治体の支援のあり方について今以上に真剣に考えないと！